



クリスチャンプレイズチャーチメッセージ

【責任を担う愛で愛し合う信仰の家族】

2016年3月6日

聖書本文:創世記 3章 1-15節 /暗唱聖句:ペテロの手紙第一 2章 24節

説教者:主任牧師 鄭南哲

(Rev.Jung nam-chul)

今日いろんな人間関係の中で混乱と葛藤、様々な問題によって悩まれる時が多くあります。教会、家庭、会社で場所関係なく、神と、家族と、夫婦と、親子と、友達と、周りの人たちと、自分との関係なく関係による大変さと難しさを感じている我々ではないでしょうか。人間関係の苦しみの深い傷や様々な深刻な事件が起こされている時代に我々は生きているのではないのでしょうか。関係と回復！このテーマは今日生きている我々に欠かせない一生大切なテーマであると信じます。そのために今月は関係の回復のために主の御言葉を通して共に学んで行きたいと思えます。

私たちはたくさんの人々と会って関係を保って生きています。いつも自分に愛に満ちている時はどんな葛藤や悩みがあっても克服出来ます。あまり問題にはなりません。しかし問題は愛の感情が冷めたときです。愛の感情はいつも満たされているわけではありません。私たちは弱い者ですから、心の状態も愛の心が、海の水のようにざっと押し寄せてくるように満たされるときもあれば、時にはざっと押しかけていくように冷めてしまうときはありませんか。実はこの時が問題なのです。今日は神様の御言葉を通して愛の感情が冷めた時、どうやって愛の関係を維持し、回復して行くのかについてみなさんとともに考えてみたいと思えます。つまり **責任感のある愛で愛することです。**

人類を代表した始めの人アダムとエバを通して、そして一番人間関係の基である夫婦と家庭を通して関係回復のために、責任感のある愛の原則を考えて見ましょう。これを通してほかの人々との関係において、教会内で、家庭の中で以前より責任のある愛をもって関係を回復していく私とみなさんとなりますように心からお祈り申し上げます。

私たちの家庭を例えとして考えて見ましょう。男女が出会って結婚に至るまでは愛の感情が満ち満ちてついに結婚にまでゴールインします。その時は相手の短所すらうつくしく魅力的に見えますし、何でも包容可能です。つまり理性よりか愛の感情が先に立つのです。ところが結婚後、新婚ほやほやの時間が過ぎて関係がなれて来ると、愛の感情が冷めていく理性が働き始め、互いの違さと短所が大きく見えて、お互いの違いを責め始めます。その時理解してくれない相手に対し、変わっちゃったと愛が冷めたと感じてしまう時があるでしょう。こう言った葛藤の関係の中で大切なのは何でしょうか。私は自らの責任を持つと行いだと思います。結婚生活を維持し、保たせる力の中で一番、強いのはまさしく**責任の力**ではないでしょうか。

二人が愛の感情と関係のゆえに結婚したならば、その結婚生活が維持されることは愛の責任に左右されるでしょう。家庭内で何か問題が生じた時に自分の責任から逃げて、互いを責めるのであれば、その関係が当然崩れて行く一方になると思えます。未熟な人間関係こそ自らの責任意識より自分の感情のままふるまい、感情によって変り揺らいで左右されて行くのではないのでしょうか。その時その時、自分の感情によって人々に接する態度や言い方が変る人がいます。ですからいつも関係が不安定になります。しかし成熟した関係とは自ら責任のある信頼と愛がその関係の源となります。そして未熟な関係をもつ人は何か問題が生じた時、いつも相手やほかの人に責任を転嫁したり問いますが、責任のある愛で立てられた人間関係は相手をせめるよりまず自身の足りなさ、不足を考えます。

<1.創世記 3章の本文:愛しても責任を負おうとしないアダムとエバ>

今日の本文である創世記 3章を見ると、初めはあれほど愛し合い、愛の告白をしていたアダムとエバの関係が崩れる場面を見ることが出来ます。アダムとエバは自分たちの行動に対して責任を負うのではなく、相手に責任を転嫁してしまいます。アダムと妻エバは神様が禁じられた善悪の知識の木の実を取って食べてしまいました。神と

の約束を破ってしまいました。神との関係が人が犯した罪のため断絶されてしまいます。そして神様のお顔をにげてかくれました。すると神様はまずアダムになぜあらわされて禁じられた善悪の木の実を食べたのかを問われます。その時、アダムはどうやって反応し行動しましたか。自分の責任からさけながら妻エバにすべての責任を転嫁し、責めていたのではないでしゅか。

創世記 3：12 節を何方か読んでくださいますか。 “人は言った。‘あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。’” アダムが言った言葉をよく観察して見て見ましょう。自分の最終意志と選択によって善悪の知識の木の実を食べたのにエバのせいだったと言うことです。しかしそこで終わったわけではありません。アダムがさらに最後に責任を転嫁するところは神様でした。

アダムは “あなたがわたしのそばに置かれたこの女” だと言います。つまり自分が罪を犯してしまったのは結局神様のせいだと神に責めているのです。次は神様がエバに問われます。**創世記 3：13 節**をどなたが読んでくれますか。

“そこで、神である主は女に仰せられた。あなたはいったい何ということをしたのか。” 女は答えた。 “蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。” エバは責任をまた蛇に転嫁します。罪を犯した瞬間から二人とも自分を弁明しながら徹底的に自己中心で利己主義者になっています。神様の御前でお互いの責任を転嫁し、お互いを責める悲惨な夫婦の姿に転落してしまったのです。

二人とも “私が間違いました。私に責任があります。妻の間違いが、夫の間違いが私のせいです。” と言いませんでした。自分自身は責任がないと、却って相手のせいであると言うことでした。確かに善悪を知る知識の木の実を食べたのにもかかわらず、自分たちの罪は知らず、告白せず、ほかの人を責めるばかりです。このように自分は責任から逃げてほかの人に責任を転嫁する見本は人類の先祖であるアダムとエバからであることがここで分かります。我々人類はみなアダムの子孫であるため私たちも他の人を責め、責任を他の人に転嫁するのに天才であることを認めなければなりません。アダム以後、今日私たちにも罪がもたらした罪の本姓がそのまま残っています。ですから私たちもどんなに犠牲的な愛で愛し、うつくしい恋愛をすることも私たちの愛は結局自分自身のための自己中心的な愛によく限界があることを悟られます。今日は私たちが燃え上がる恋に落ちたとしても、明日わずかな問題で互いにくしみ、責める関係になってしまいがちであることをいつも念頭において下さい。みなさんの姿はどうですか。他人をせめ、責任を転嫁することは人類の歴史ほど長いのです。数多くの関係がむずかしくなっている理由はまさにここにあるのではないでしゅか。

“私の責任でした！私のあやまちでした！私がまちがいました！” このように自ら責任意識を私たちが持っているならば、私たちの間で関係の葛藤や問題は意外とたやすく解決され、回復されると信じます。ですから私たちが成熟した人間関係をつくり、関係の回復を願うならば、この責任の法則を学ばなければなりません。意図的に努力しなければなりません。

＜2. 責任の法則にしたがって行なう時、私たちは成熟した関係をさらに築き上げて行く事ができます。＞

今日本文の御言葉を通して私たちはアダムとエバの過ちから学ばなければなりません。私たちは彼らのようにほかの人に責任を転嫁するのではなく、自ら責任を負う者にならなければなりません。 責任を負うということは何を意味しますか。責任を負うということは過ちを犯した時、自分のその過ちを認めることです。 この事はすべての人間関係だけではなく、神と関係の回復のためにも神様の御前での我々が持つべき態度だと聖書は教えています（第一ヨハネ 1 章 9-10 節：“もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。”）。

責任を負うということは自分の過去の過ちに勇氣ある対面をすることです。傷つけられた心がいやされる過程を受け入れることです。苦しみをさげず、直面することです。だれかとの関係がくずれたときその関係の回復を求める

ことです。そしてその関係の回復とともに新たな出発を願うことです。

<3. 自ら責任を負う時に注意すべき事>

ところが、愛するみなさん！ここで我々が注意すべきことがあります。それはバランスです。つまり、すべての責任がいつも自分だけにあると思って自分がすべての結果を引き受けようとする事も問題です。そしてすべての責任をほかの人に転嫁しようとする事も正しくありません。私たちは正しい責任感を持つためには正しい分別力を持たなければなりません。自分の負うべき責任は何かをよく知り、正しく見分ける智慧も必要です。そして自分がどこまで責任を負い、どこまで責任を負えないかも知る必要があります。私たちは神様ではありません。ですから私たちは自らすべての問題を解決も、すべての責任をも負うことはできません。

時には私はすべての責任を自分が負うべきだと思った時があります。すべての人とすべての責任が自分にあると考え込んでしまった結果、自分自身を責め、自己を虐待し、自己憐憫に落ちてしまい、意欲を失ってしまった時があります。しかし結局、これはけっして神様の前で謙遜でもないし、正しい関係の回復のやり方でも、正しい愛する態度でもないことがわかりました。そしてある時にはすべての責任を他人に転嫁したくなったりもします。自分自身に不利な時、他人の目が気になった時、私はすぐさま、環境やこの世を責めた時もあるし、他人に責任を追い詰めた時もあります。しかしそれも神様の御前ではとても未熟な姿勢で、正しい考えではないことがわかりました。みなさんはどうですか。どちらかに偏っていた自分自身は今までなかったでしょうか。

主にあって愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族であるみなさん！愛するということは何でしょうか。私は愛するということは自ら責任を負うことだと信じます。私たちは愛すれば愛するほど、責任感を持つようになり、愛するためどんな犠牲を払っても喜んでみずから愛する者の為に責任を負おうとします。自ら責任を持つとする人！その人たちが人格者だと言えらると思います。有名な哲学者だったイマヌエル・カントという人は“人格というのは責任能力だ”という有名な言葉を残した事があります。指導者は責任を負う人です。責任をたくさん負えば負うほどもっとすばらしい指導者になると私は信じます。責任を果す力はどこから来るのでしょうか。私は愛から出るのだと信じます。ですから私たちはいつも愛に基づいて問題などを解かさなければなりません。

するとみなさんは愛の最高の表現は何だと思えますか。愛の告白、プレゼント、ユーモアでしょうか。

私は愛の最高の責任ある表現があればそれは愛する人のために犠牲を払うことだと信じます。愛する人のために喜んで自分が責任を取るという証拠が自己犠牲になることではないでしょうか。犠牲を払うことは自分が代わりにあるいはともに責任を負うことです。

ある出来事にたいして責任が全部自分にあるわけではないが、愛するがゆえに相手が問われるべき責任まで自分も共に負うことこれが犠牲であり、人格であり、成熟された愛だと信じます。

ですから自分たちの関係がもっと成熟し、まことの回復を求めるのであれば、私たちは人格的にもっと成熟しなければなりません。なぜなら成熟した人こそ責任を負うことができるからです。

反対に未熟な人たちはたえず相手を非難し、恨み合い、相手のせいにします。未熟な人たちがたやすく相手のせいにしてしまう理由は何でしょうか。自分自身はつらさに直面したくないからです。辛いことや問題からはさげたいからです。つらい真実に直面したくないからです。そういうわけで問題はさらに深刻になるのです。

私たちの教会のみなさんは家庭や教会内でいつも責任感のある信仰者として止まらなくつづけて成熟して行きますように心よりお願いします。直接的に自分には関係がないとしても一つの家族であり、主にある兄弟、姉妹であるため喜んでともに責任を負おうとしている成熟されたクリスチャンの姿勢がありますように心から祈ります。

<4. イエス様は十字架の上で私たちの罪の責任を私たち代わりに負ってくださいました。>

神様が罪を犯したアダムとエバのためにされたことがあります。なんですか。創世記 3：21 をみると、“神である主はアダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。”と書かれています。神様が彼らに着せてくださった皮の衣は羊の血が流されて作られ出来上がった衣でした。アダムとエバの罪の恥を解決させ覆うため神ご自身が羊を犠牲させて作ってくださったのです。創世記 3：21 節はやがて私たちの罪のために十字架にかかって尊い血潮を流し、死んでくださるイエスキリストを象徴する箇所であります。

イエス様はこの世に子羊として来られました(ヨハネ 1：29)。そしてこの地に来られて成されたことは私たちの罪をなくしてくださったことです。悪魔のわざをほろぼしました。イエス様の十字架の血潮によって私たちの罪を赦してくださいました。私たちの罪に対する責任を私たちの代わりにイエス様が負ってくださって十字架で死んでくださいました。それで私たちにイエス様の義の衣を着せてくださったのです。

イエス様は私たちが負うべき罪の呪いと裁きを十字架で受け、犠牲を惜しみなく払って下さったゆえに私たちに神との関係にも和解を与えて下さったのです。神様と人々と和解の関係で回復させてくださったのです。

新約聖書の第二コリント人への手紙 5章ではイエス様が私たちの御代わりに罪のすべての責任のため死んでくださった事実を繰り返して言われています。そのようにされたのは私たちに和解をさせ、回復させるためだったということです。

愛する信仰の家族のみなさん!初めてのアダムは罪を犯した後、その罪を、一番、親しい人に、そして神様にその罪を転嫁しようとしてしました。これによって人類に罪の責任が転嫁され、罪が転嫁され、罪の結果、死が転嫁されてしまいました。しかし最後のアダムであられるイエス様は罪を知らないのに、私たちに對する愛のゆえにむしろ私たちの代わりに罪とされたのです(第二コリント 5:21)。わたしたちの代わりに罪の責任を負ってくださったのです。そしてイエス様は十字架で死んでくださったことによって私たちに和解させてくださいました。へだての壁を打ち壊し、二つのものを一つにしてくださいました(エペソ 2:14)。

今日私たちがそのイエス様の足跡を追っていきましょう。関係の悩みがあるとき、罪を犯した時重い、大変なすべての責任をイエス様にもっていきましょう。そしてイエス様の助けを切に求めましょう。そして悔い改めましょう。そのとき、イエス様は私たちに赦しの恵み、回復と和解の恵みを与えてくださると信じます。

少なくとも私たちの教会の家族だけでも、アダムとエバのように相手をせめる習慣をすてましょう。責任を他人に転嫁するゲームはもうやめましょう。自分の責任だけではなくほかの人の責任までもともに負う人になりましょう。そのために今も私たちに愛しておられ、私たちのすべての罪の責任を代わりに負ってくださったイエス様の恵みと力を切に求めましょう。

メッセージを終わらせます。

私たちの人生は問題からにげ、苦しみをさけ、責任をさけることによって決して幸福にはなれません。いや、むしろもっと関係が難しく、問題はさらに大きくなると思います。しかし神様の助けをいただいて問題に直面し、責任を負う時は却って関係が回復されていくでしょう。責任を負うことこそ問題はさらに解決され、もっとすばらしい関係で回復されると信じます。イエス様を信じているクリスチャンとしてイエス様のように神の家族として共に愛し合いながら共に責任を負う神様の人、成熟した信仰の一人一人となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

